

Title	福沢書翰二通(三月十二日付および七月五日付,金井又二宛)について
Sub Title	
Author	会田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1968
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.41, No.2 (1968. 9) ,p.32(204)- 32(204)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19680900-0032

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福沢書翰二通（三月十二日付および七月五日付、
金井又二宛）について

『福沢諭吉全集』第十七巻に金井又二宛の福沢書翰二通が載つている。

一通は六月二十二日付の金井の手紙に対する返信で、日付は七月五日付となつてゐるが、年はしるされてゐない。しかし、追書に「尚以横浜にはコレラ追々来襲のよし呉々も御用心奉祈候」とあることから、全集の編者はこれを「明治十五年？」のものとして推定し、註記してこういつてゐる。

「続福沢全集」では「明治十六、七年頃？」とあるが、東京横浜にコレラの流行したのは、明治十五年七、八月頃と、十九年四、五月頃とであつたから、この手紙は恐らく十五年のものであらう。云々

また、他の一通は三月十二日付で、高岡の学校に在職してゐたらしい金井からの便りに、返信かたがた近況を報じたものである。そして、この書翰にも年はしるされてゐないが、これも全集の編者の推定によると、「明治十八年？」とされてゐる。

しかるに、ことし（昭和四十二年）の春、これらの書翰を実際に見る機会を得た。所蔵者は東武鉄道株式会社に勤務されてゐる金井恒夫氏といつて、又二の子孫にあたるかたである。慶応義塾の安西理事がたまたま金井氏からこのことをきかれたのが縁で、同理事の紹介により四月二十七日、それらをお借りすることができたのであつた。

しかも、それらは二通とも封筒までがキチンと保存されてい

て、そこに押捺されている消印から、発信年がはつきり知られたのである。すなわち、前者は「明治十九年七月五日付」、後者は「明治十七年三月十二日付」で、したがつて『福沢諭吉全集』における掲載の順序は違つてくることになる。のみならず、全集掲載のものと校合すると、字句にも若干の異同が見られた。次のとおりである。しるして参考に供する。

明治十七年三月十二日付のもの

毎日時事新報に忙しく——毎日時事新報に忙わしく

英語英文を勉強^x——英語英文を勉

外国人往来——外国人^o之往来

御返事——御返詞

御自重専一存候——御自重専一奉^o存候

滞在入校し——滞在入校致し

時事新報社迄報知被下度奉願候——時事新報まで御報知被

下度奉願候以上

このほか、てにをはなどはおおむね片仮名書きを、全集では平仮名に直してある。

明治十九年七月五日付のもの

老生儀——老生義

近来は別て御多忙のよし——近来ハ別御多忙のよし

御用心奉祈候——御用心奉祈候以上

このほか、てにをはなどの仮名づかいに関して右のものと同じ。
(会田倉吉)